

参考資料

計画の策定に係る状況

(1) こども・若者会議

計画策定に際しては、一般公募した「こども・若者会議」メンバーが会議において、それぞれ意見を出し合うとともに、学校でのワークショップやアンケートを通して、より多くのこども・若者の声を聴きながら、こども・若者自身により検討・策定が進められました。

①メンバー構成

市内在住または在学・在勤の6歳から29歳までのこども・若者37名。
(小学生14名、中学生8名、高校生6名、大学生3名、社会人6名)

②ワーキンググループ

高校生以上の会議メンバーから構成される「ワーキンググループ」を設置し、計画策定に向けた全体スケジュールをはじめ、会議内容の検討及びワークショップの進行、アンケート調査の対象・設問の検討、市長・副市長による学校等でのワークショップへの同行、こども・若者会議PR動画の作成など、会議の中心的な役割を担いました。

③会議の開催状況【21ページ】

こども・若者会議：8回（令和7年7月～令和8年2月）

(2) 学校等でのワークショップの実施【22ページ～29ページ】

市内の小学校4校、中学校2校、高校・高専2校、県立大学1校に市長、副市長がワーキンググループメンバーとともに直接出向き、ワークショップ形式で1,608件の意見を集めました。

(3) アンケートの実施【30ページ～54ページ参照】

市内教育機関（小中学校、高校・高専、大学）を通じたアンケートの実施に加え、ワーキンググループの提案で、市ホームページのほかに市内商業施設へのポスター掲示、インスタグラムへの広告掲出を行ったほか、障害児、不登校児など意見を出しにくいこども・若者については、平素から関わりを持つ市担当部署等を通じて実施した結果、15,793件の意見が集まりました。

(4) パブリックコメント

市民の意見や対案を計画に反映させるため、令和8年1月16日から2月16日の間、明石市こども・若者計画（素案）に対するパブリックコメントを実施し、〇〇人から〇〇件の意見が寄せられました。こども・若者会議での検討の経過

こども・若者会議での検討の経過

開催日	テーマ	内容
第1回 令和7年7月5日	『わたしたちの“あかし”はこんなまち』	自分たちが暮らす明石のまちの現状について意見を出し合った
第2回 令和7年8月3日	『こんな“あかし”になったらいいな』	自分たちが望む明石の将来像について意見を出し合うとともに、さらなる意見聴取のための対象、方法について考えた
第3回 令和7年8月31日	『「こんな“あかし”になったらいいな」をもっと深く考えよう』	第2回会議で出た意見について、さらに深く掘り下げて検討し、基本理念が決まった
第4回 令和7年10月4日	『理想の“あかし”になるために何が必要なのか考えよう』	第3回会議で決まった基本理念を実現するために何が必要かを検討し、施策展開の柱を考えた
拡大版 令和7年10月26日	新たに一般公募したこども・若者とコーディネーターとして大阪・関西万博クラゲ館プロデューサー中島さち子氏を迎え、これまでの取組を振り返るとともに、ワークショップを実施し、これまでの意見をさらに深めた	
第5回 令和7年11月29日	『“明石市こども・若者計画”の基本理念と施策展開の柱を決めよう』	第4回会議で検討した基本理念及び施策展開の柱をもとに、ワークショップやアンケートの結果を踏まえ、“明石市こども・若者計画”の基本理念と施策展開の柱を設定した。
第6回 令和8年1月10日	『“明石市こども・若者計画”の施策展開の柱につながる具体的な施策について考えよう』	これまでの会議で出た意見などを参考に、具体的な施策について検討し、計画素案を完成させた
第7回 令和8年2月21日	『“明石市こども・若者計画”を完成させよう』	計画素案に対するパブリックコメント等での意見を踏まえ、最終的な計画案を完成させた

○ 学校等でのワークショップの実施結果

1 実施概要

(1) 対象・参加者数

① 小学校

朝霧小学校	1クラス	34名
沢池小学校	1クラス	31名
江井島小学校	1学年	111名
錦が丘小学校	1クラス	28名

② 中学校

野々池中学校	生徒会役員ほか	23名
魚住東中学校	生徒会役員ほか	13名

③ 高校

明石商業高等学校	生徒会役員ほか	14名
明石工業高等専門学校	学習チーム	23名

④ 大学

兵庫県立大学看護学部	応募者	6名
------------	-----	----

参加者合計 257名

意見総数 1,608件

(2) 実施方法

「こんな明石になったらいいな」「みんなが安全・安心で、自分たちの声が尊重され、実現できるまち明石」をテーマに自由記述で意見を出し合い、まとめたものをグループごとに発表し、全体で共有しました。

(3) 実施期間

2025年（令和7年）10月8日から11月10日

2 ワークショップでの意見

(1) 全体傾向

カテゴリごとの意見数は別図のとおり。商業施設、インフラ・通信環境、遊び場・レジャー、教育・学校生活、公園・緑地整備、公共交通・移動手段など、日常生活に直結する課題が多く挙げられています。

(2) カテゴリートップ10の代表的意見

① 商業施設

- ・もっと店を増やしてほしい
- ・大型ショッピングモールやデパートがほしい
- ・駄菓子屋をつくってほしい

② インフラ・通信環境

- ・もっとベビーカーが通りやすいように道を整備
- ・安心して通えるような通学路をつくってほしい
- ・公共Wi-Fiを増やしてほしい

③ 遊び場・レジャー

- ・みんなが楽しめる場所がほしい
- ・遊ぶ場所を増やしてほしい
- ・イベントをもっと増やしてほしい

④ 教育・学校生活

- ・スマホなどの正しい使い方をもっと教育に入れた方がいい
- ・体育館にエアコンをつけてほしい
- ・学校にみんなで話せるようなところがほしい

⑤ 公園・緑地整備

- ・こどもから大人まで遊べる大きな公園がほしい
- ・スポーツができる公園がほしい
- ・近くにある公園でも校区外だから公園がほしい

⑥ 公共交通・移動手段

- ・バスの本数を増やしてほしい
- ・地下鉄を明石までのばしてほしい
- ・交通が発展したまち

⑦ 交流・つながり

- ・いろいろな人とコミュニケーションが取れる明石市がいい
- ・色んな人が笑顔で話し合える場所
- ・中学校に向けて、小学校と中学校の交流を増やしたい

⑧ スポーツ施設・設備

- ・バスケットゴールがほしい
- ・スポーツができる場所をつくってほしい
- ・プールをつくってほしい

⑨ 環境・美化

- ・ポイ捨てなどが無いまち
- ・地域の人たちと協力して海を掃除する
- ・ゴミが落ちてないきれいな明石にしたい

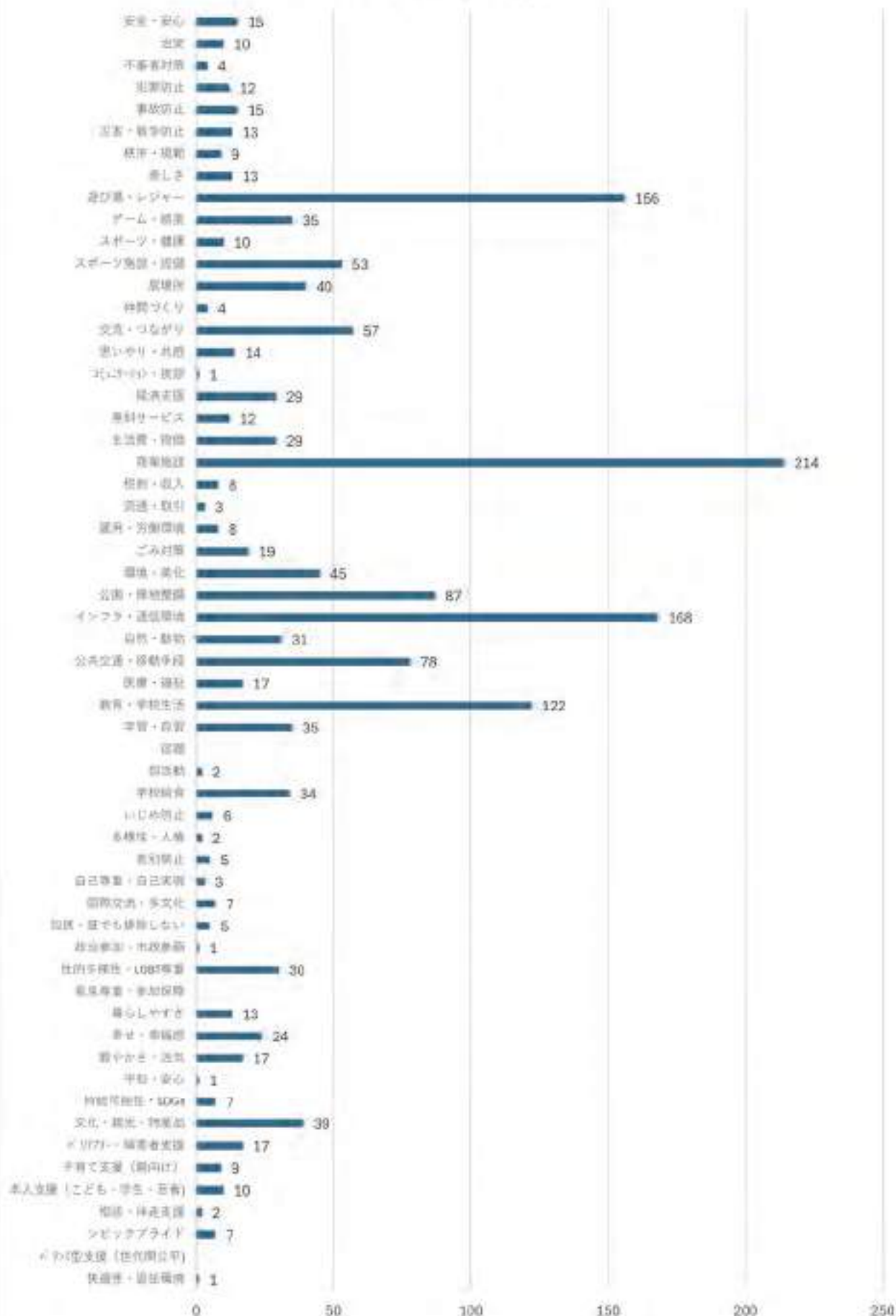
⑩ 居場所

- ・フリースペースを増やしてほしい
- ・こどもの夢を尊重してくれるこどもの居場所をつくってほしい
- ・放課後に友達と集まって遊べるスペースが近くにほしい

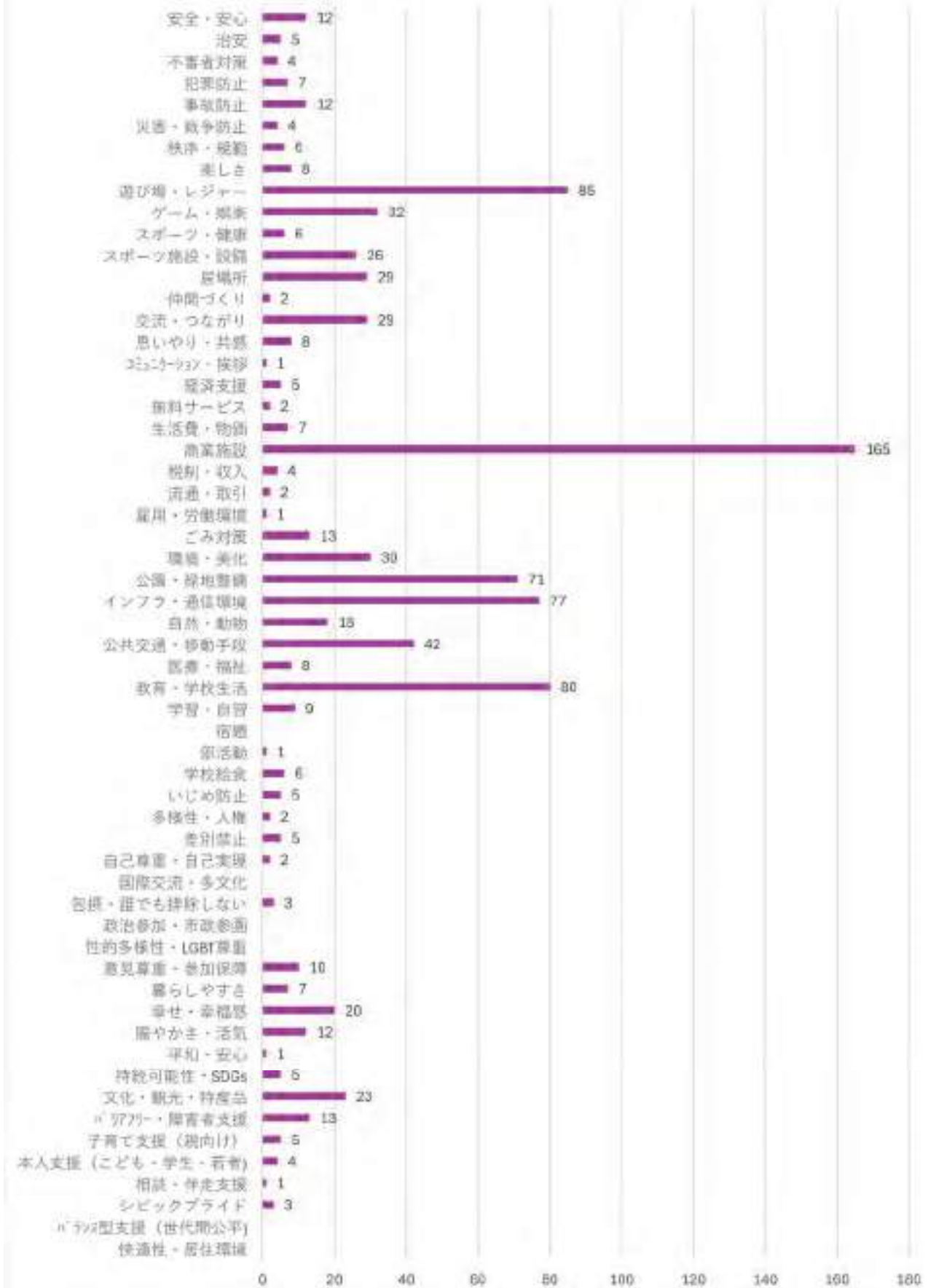
(3) 全体の傾向

- ① 遊び、交流、利便性、安全性、多様性への強いニーズがありました。
- ② 施設不足、交通不便、情報不足など、現状の課題を具体的に指摘し、改善を求める意見が多くありました。
- ③ 「みんなが幸せ」「みんなが笑顔」「みんなが安心」など、共生、幸福、安心を重視する価値観が根底に感じられます。

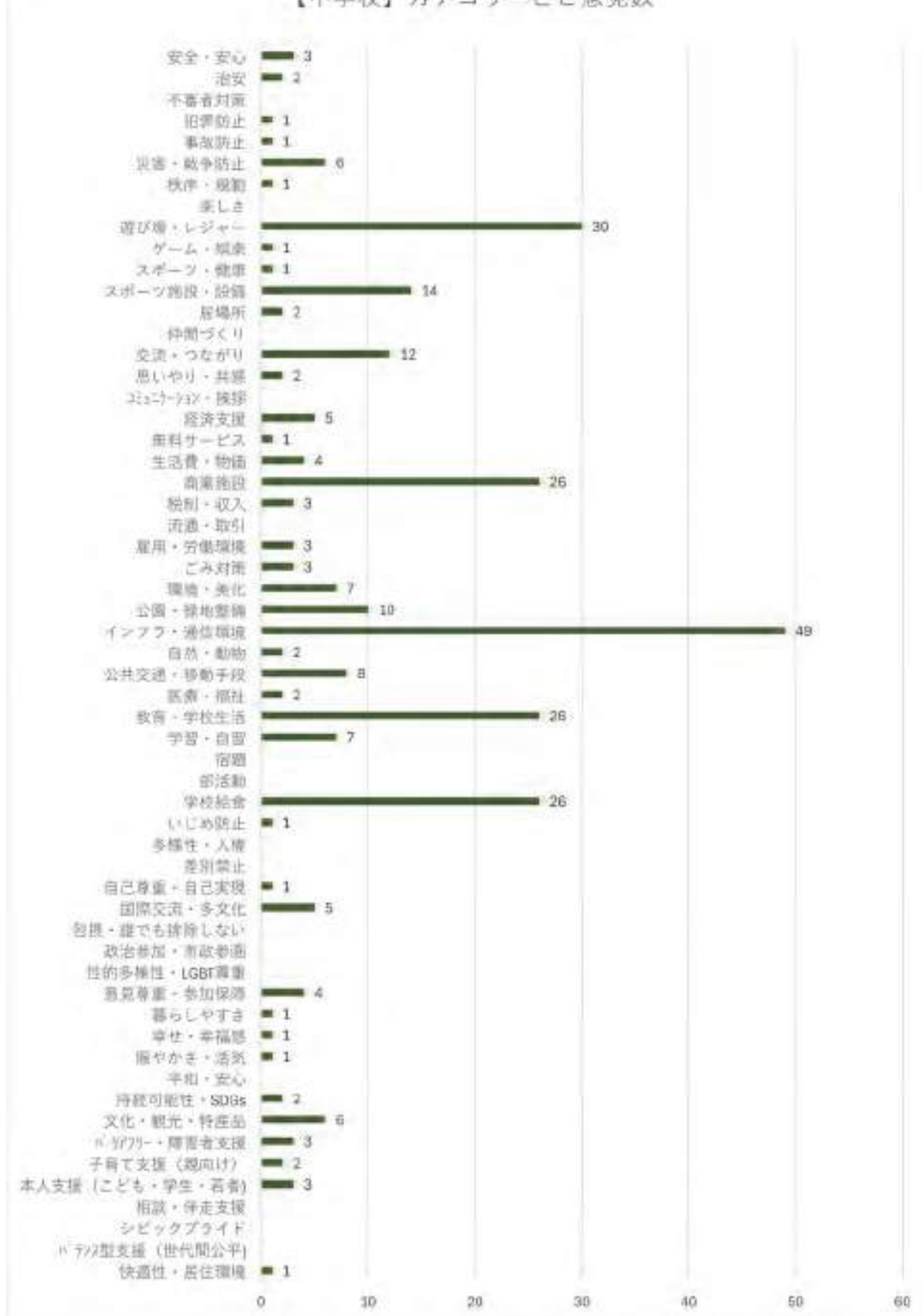
カテゴリーごと意見数



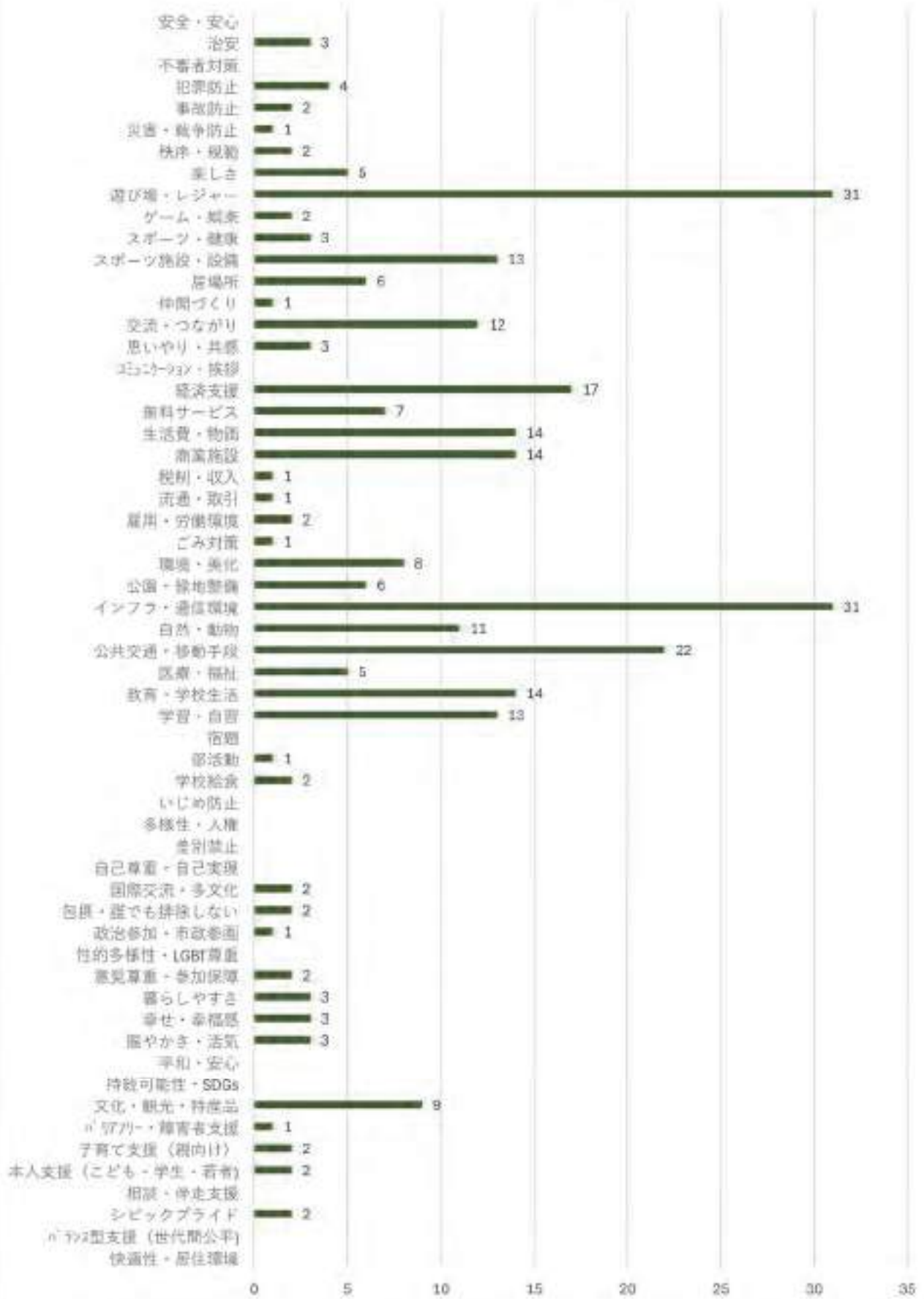
【小学校】 カテゴリーごと意見数



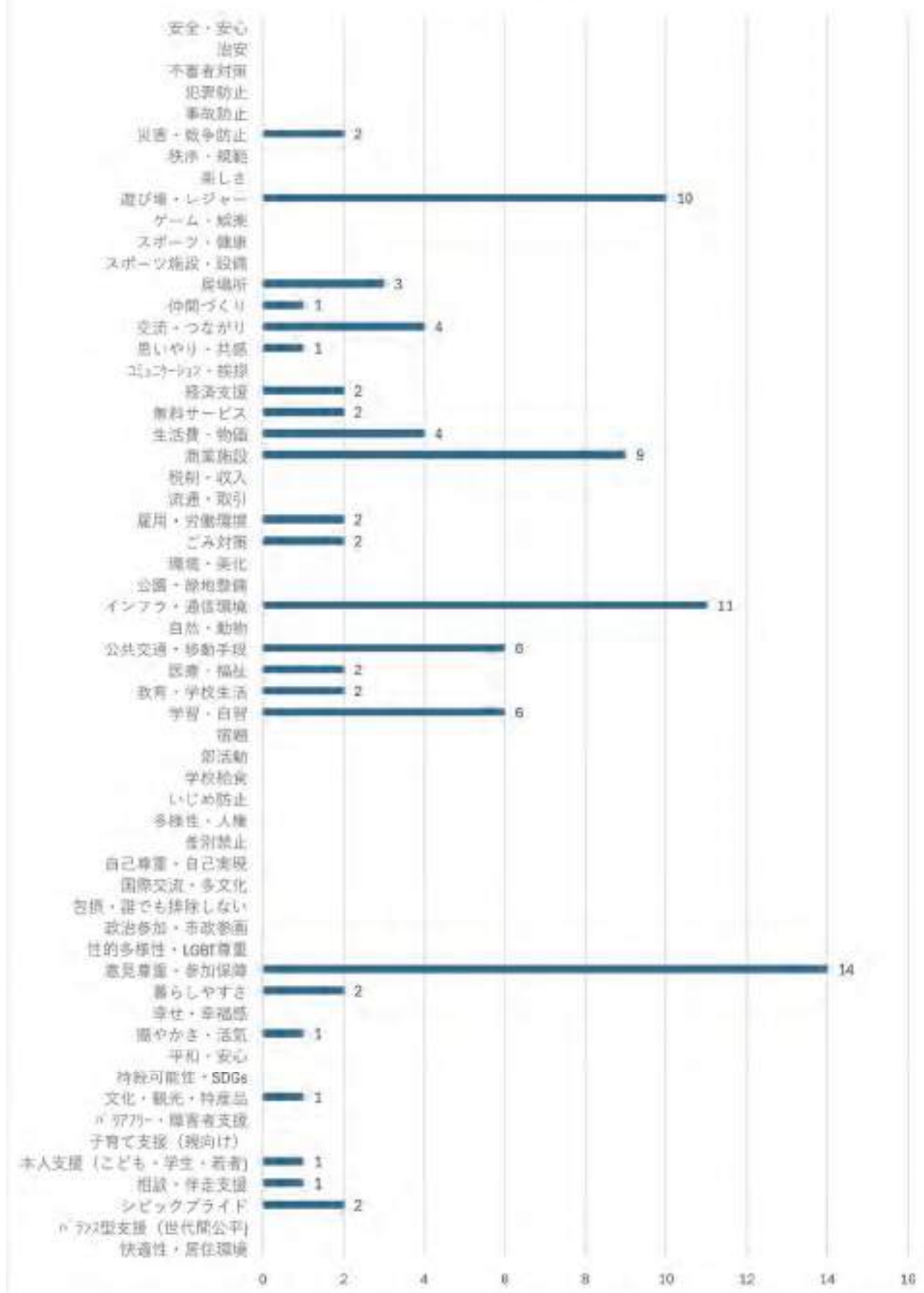
【中学校】 カテゴリーごと意見数



【高校】 カテゴリーごと意見数



【大学】 カテゴリーごと意見数



○ 小学生・中高生・若者を対象としたアンケートの実施結果

1 実施概要

(1) 対象・回答数

- | | |
|-----------------|--------|
| ① 小学生（3年生から6年生） | 7,343件 |
| ② 中学生 | 5,449件 |
| ③ 高校生 | 2,599件 |
| ④ 若者（18歳から29歳） | 402件 |

回答総数 15,793件

(2) 実施方法

自由記述を含む無記名アンケート。市内の小・中学校、高校、大学を通じて児童、生徒、学生への回答を依頼するとともに、障害児（者）、不登校児、施設入所児等については所管課を通じて回答を依頼。また、若者については広報紙、ホームページ、商業施設へのポスター掲示に加え、インスタグラムへの広告掲載を行い回答の回収率向上を図った。

(3) 実施期間

2025年（令和7年）10月8日から10月31日

(4) アンケート設問（対象別）

小学生向け設問

- ① あなたが「好き」「あんしんできる」と思うばしょはどこですか？
選択肢：おうち／がっこう／おじいさん・おばあさんのいえ／ともだちのいえ／インターネット／その他
- ② さいきん、うれしかったことはありますか？
- ③ さいきん、こまっていることはありますか？
- ④ がっこうやおうちで、じぶんの思ったことを言えていますか？
選択肢：言えている／言えていない／わからない
- ⑤ こんな“あかし”になったらいいなと思うことをかいてください

中高生向け設問

- ① 自分が「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場所はどこですか？
- ② 学校や地域で「自分の意見を言える」と感じる場面はありますか？
選択肢：よくある／ときどきある／あまりない／まったくない
- ③ 最近、うれしかったことはありますか？
- ④ 最近、困っていることはありますか？
- ⑤ 困ったとき、相談できる人はいますか？
- ⑥ 自分の意見が社会やまちづくりに活かされると感じますか？
選択肢：そう思う／どちらとも言えない／そう思わない
- ⑦ 「こども・若者の声をもっと聞いてほしい」と思うことはありますか？
選択肢：強く思う／少し思う／あまり思わない／まったく思わない
- ⑧ こんな“あかし”になったらいいなと思うことを自由に書いてください

若者向け設問

- ① あなたが「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場面や場所はありますか？
- ② 地域や制度に対して「声が届いている」と感じることはありますか？

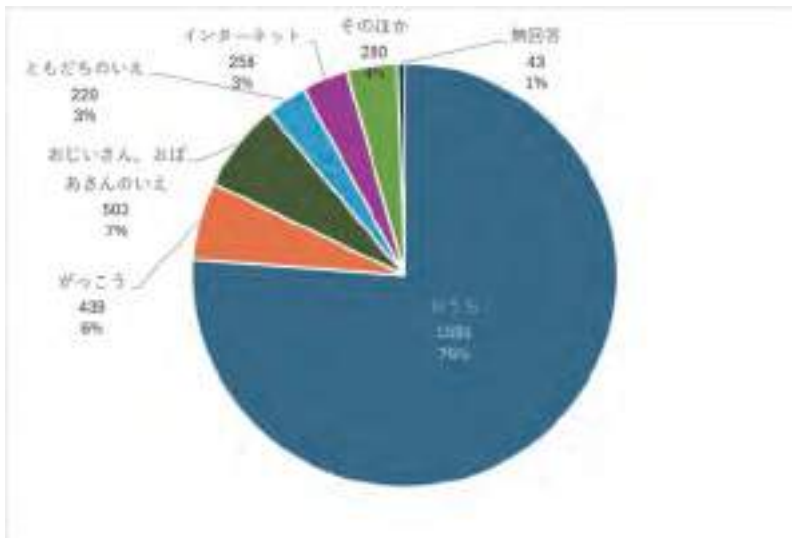
選択肢：よくある／ときどきある／あまりない／まったくない

- ③ 明石市で暮らしてよかったと思うことは何ですか？
- ④ 明石市において、若者として感じる課題や改善してほしいことは何ですか？
- ⑤ 若者がもっと地域に関われるようにするには、どんな仕組みがあるとよいと思いますか？
- ⑥ こんな“あかし”になったらいいなと思う理想像を自由に書いてください

2 対象別回答内容

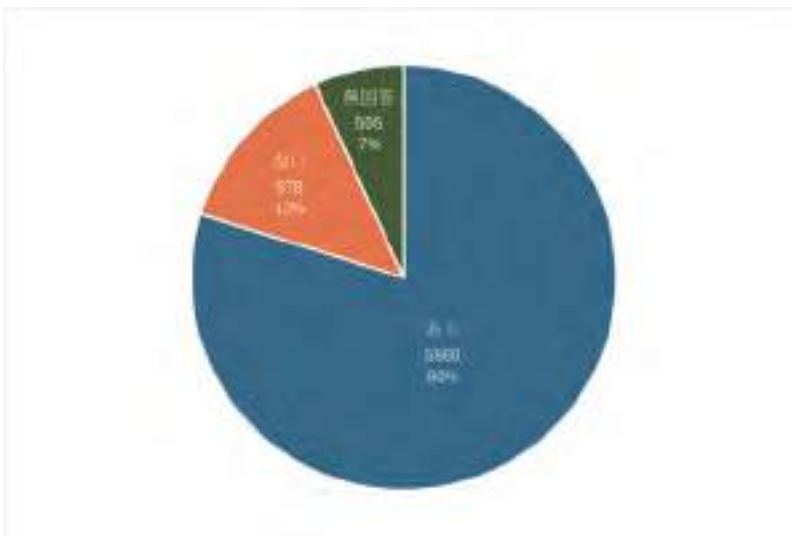
(1) 小学生

- ① あなたが「すき」「あんしんできる」と思うばしょはどこですか？



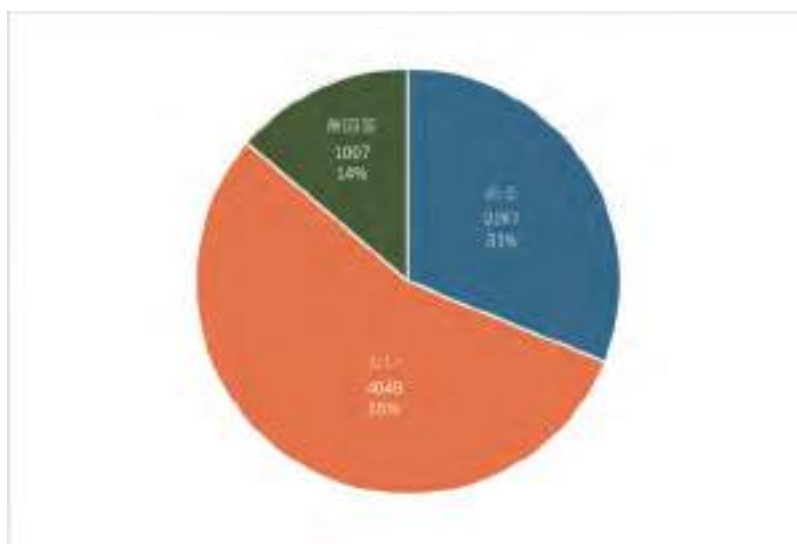
- ・「おうち」が圧倒的に多く、安心できる場所として「自宅」が最も強く認識されている。
- ・「その他」では、公園や図書館のほか塾などの習い事の間が挙げられている。また、少数ながら安心できる場所はないとの意見もある。

- ② さいきん、うれしかったことはありますか？



- ・「友達と遊んだ」「家族と過ごした」「テストで良い点を取った」「習い事やスポーツで成果を出した」「好きなものを買ってもらった」「イベントや旅行に行った」など、うれしかったことの内容は多岐にわたる。
- ・「友達と遊んだ」「家族と出かけた」「友達が増えた」「家族や友達に褒められた」など、人とのつながりやコミュニケーションに関する喜びが多く見られる。
- ・「逆上がりができた」「テストで100点を取れた」「習い事で合格した」「新しいことに挑戦して成功した」など、成長や達成感に関する記述が目立つ。
- ・「ゲームを買ってもらった」「好きなキャラクターのグッズを手に入れた」「新しい服や本を買ってもらった」など、物を通じたうれしさも多く見られる。
- ・「誕生日」「お祭り」「修学旅行」「運動会」「旅行」など、非日常的な出来事に関する喜びも多く記載されている。
- ・「特にない」「思いつかない」「わからない」など、うれしかったことが思い浮かばない児童も一定数存在している。

③ さいきん、こまっていることはありますか？



- ・全体としては「困りごとがない」回答が多い一方で、「困りごとがある」との回答では「学校生活・学習」「人間関係」「家庭・家族」「健康・生活習慣」など多岐にわたる。
- ・学校生活・学習
 - 授業中の困りごと（クラスがうるさい、授業に集中できない）
 - 学習の難しさ（算数や勉強が難しい、宿題が多い・難しい）
 - 発表やテストへの不安（発表ができなくなった、テストで良い点が取れない）
- ・人間関係
 - いじめ・悪口・仲間外れ
 - 友達とのトラブル（喧嘩、誘われない、無視される）
 - 孤独感や不安（1人ぼっちになる、嫌われている気がする）
- ・家庭・家族
 - 家庭内の問題（両親の喧嘩・別居、家族との関係）

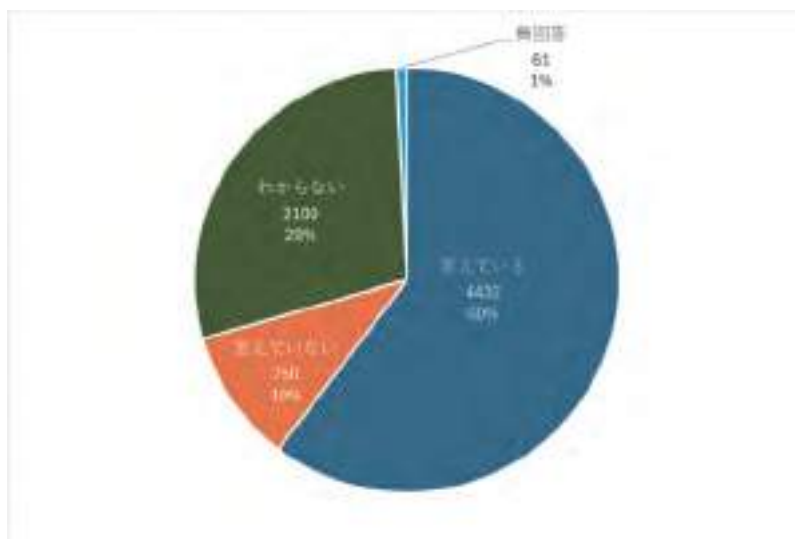
家族の健康や仕事（親の仕事が忙しい、家族が風邪）

・健康・生活習慣

睡眠・体調（寝られない、体調不良）

生活リズム（早起きできない、夜寝られない）

④ がっこうやおうちで、じぶんの思ったことを言えていますか？



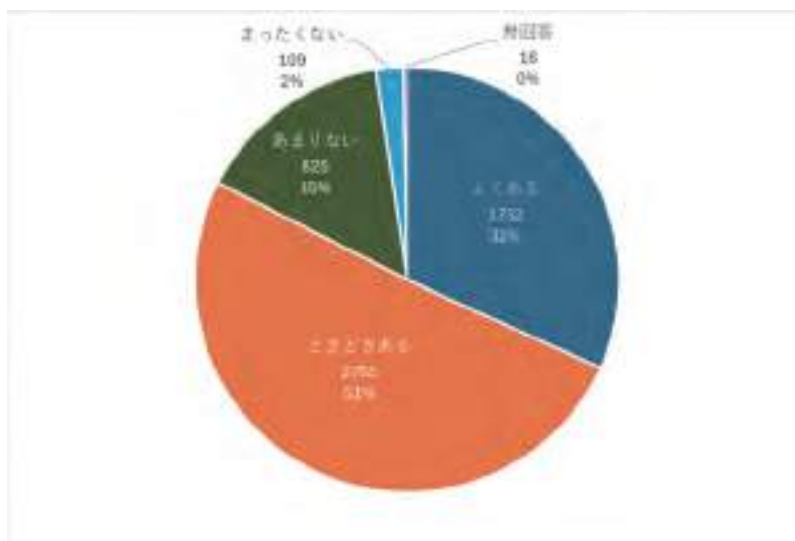
- ・「言えている」と答える児童が多いことから、学校や家庭で自分の思ったことを表現できていると感じている児童が多いと考えられる。
- ・「わからない」と答える児童も一定数存在しており、「言えている」「言えていない」のどちらかを選びきれない、もしくは自己表現の実感が曖昧な児童が多いことを示している。
- ・「言えていない」と答えた児童が1割おり、自己表現に困難を感じている、もしくは環境的な要因（家庭や学校での雰囲気、対人関係など）で発言しづらい状況にある可能性がある。

(2) 中学生

① 自分が「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場所はどこですか？

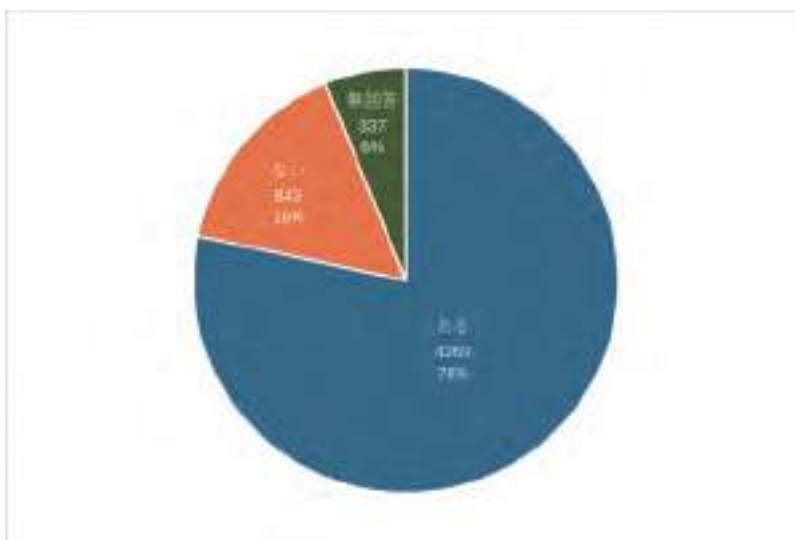
- ・「家」「自分の家」「自分の部屋」「お家」など、自宅や自分のプライベート空間が最も多く挙げられている。
- ・「学校」「教室」「部活」など、日常的に過ごす場所も多く挙げられており、「友達といるとき」「部活動のとき」「クラス」など、仲間や友人と一緒にいることで安心感や自分らしさを感じている様子が見られる。
- ・「一人の時」「一人でいられる場所」「自分の部屋」「布団の中」など、他人の目を気にせずリラックスできる空間も多く挙げられている。

② 学校や地域で「自分の意見を言える」と感じる場面はありますか？



- ・「ときどきある」「よくある」を合わせると8割以上を占めており、多くの生徒が何らかの形で意見を言える場面があると感じていることがわかるが、一方で、「あまりない」「まったくない」と感じている生徒も一定数いるため、全員が自由に意見を言える環境ではないことも伺える。

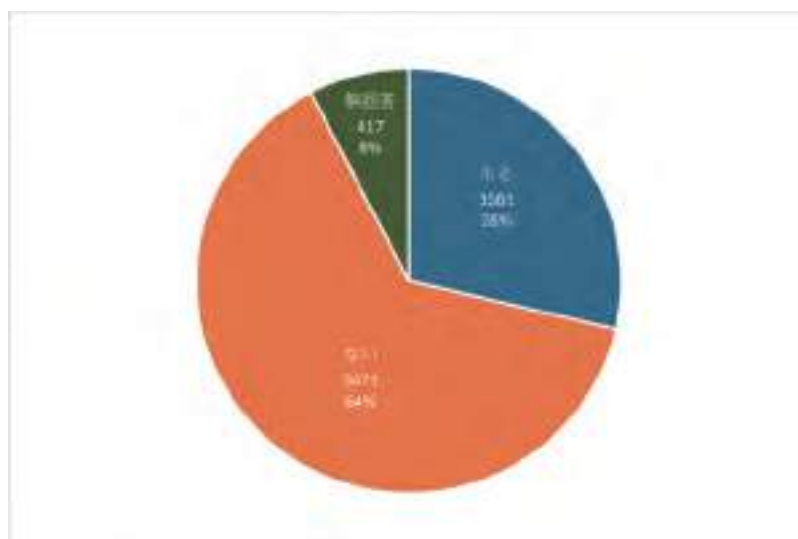
③ 最近、うれしかったことはありますか？



- ・全体として、「人とのつながり」「努力の成果」「好きなこと」「日常の小さな幸せ」など、さまざまな場面でうれしさを感じている。特別な出来事だけでなく、日々の生活の中の小さな出来事にも喜びを見出している生徒が多い。
- ・「友達と遊んだ」「友達が増えた」「家族と出かけた」「友達に褒められた」など、身近な人との関わりやコミュニケーションがうれしかったという声が非常に多い。
- ・「テストでいい点が取れた」「部活で自己ベストが出せた」「体育大会や文化祭で優勝・受賞した」など、勉強や部活動、学校行事での成果や成長を喜ぶ回答が目立つ。
- ・「好きなアニメやゲームの新作が出た」「推しのグッズが手に入った」「ライブやイベントに当選した」など、自分の趣味や推し活に関するうれしさも多く挙げられている。

- ・「美味しいものを食べた」「寝れた」「お菓子をもらった」「新しい服や本を買ってもらった」など、日常の中のちょっとした出来事をうれしいと感じている生徒も多い。
- ・「身長が伸びた」「けがが治った」「運動で記録が伸びた」など、自分自身の成長や健康に関する喜びも見受けられる。
- ・「特にない」「あまりない」「思いつかない」といった回答も一定数ある。

④ 最近、困っていることはありますか？



- ・全体としては「困りごとがない」回答が多い一方で、困りごとがある場合は「勉強」「人間関係」「健康・生活リズム」「部活動」「お金や物理的な環境」など、さまざまな分野で困りごとが挙げられている。

・勉強

成績・受験に関する悩み（やる気が出ない、点数が上がらない、受験が不安）

・人間関係

学校生活での人間関係の悩み（友達関係がうまくいかない、悪口を言われる）
家庭内のコミュニケーションに関する困りごと（家族に相談できない）

・健康・生活リズム

健康や生活リズムに関する悩み（寝不足、睡眠時間が足りない、疲れが取れない）

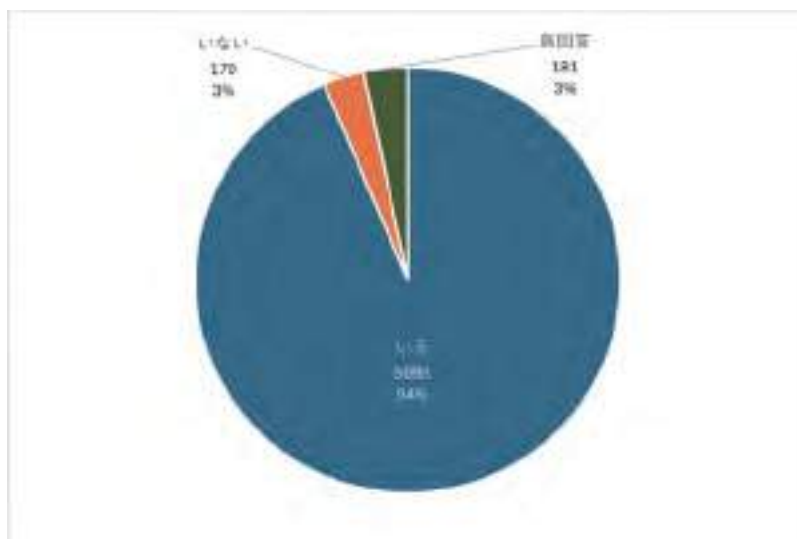
・部活動

部活動に関する悩み（部活がしんどい、部活と勉強の両立ができない）

・お金や物理的な環境

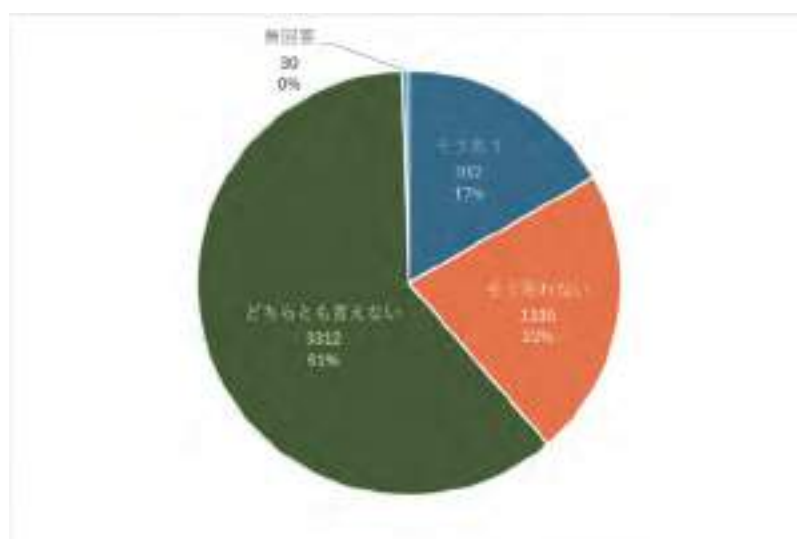
生活環境や物理的な困りごと（お金がない、スマホが没収された、寒い・暑い）

⑤ 困ったとき、相談できる人はいますか？



- 多くの生徒が「家族」「友達」「先生」など、身近な人を挙げている。
- 「家族や友達、先生など複数いる」と答える生徒も多く、特に「お母さん」「お父さん」「親」「担任の先生」など具体的な名前や関係性が頻出している。
- 「内容によって相談相手が変わる」「信頼できる友達や家族がいる」など、状況や悩みの種類によって相談相手を選ぶという声も見られる。
- AI（チャット GPT）」や「ネット」など、デジタルな相談先を挙げる生徒も一部いる。
- 「あまりいない」「いない」「いなくてもいい」「相談したくない」など、相談相手がない、または相談自体を望まないという回答も一定数ある。

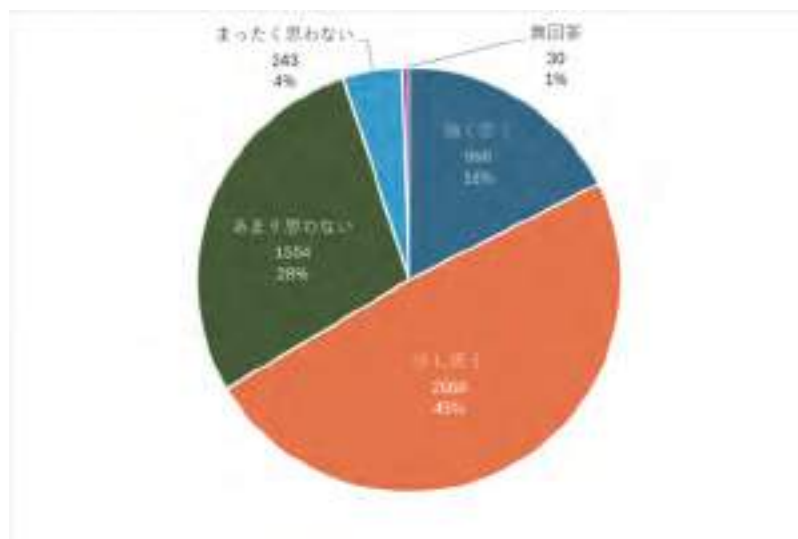
⑥ 自分の意見が社会やまちづくりに活かされと思いますか？



- 「どちらとも言えない」が非常に多く、半数以上を占めている。
- 「そう思う」と「そう思わない」は、どちらも一定数存在するが、「どちらとも言えない」に比べるとやや少なめ。

- ・「どちらとも言えない」が多いのは「自分の意見が社会にどう影響するか実感しにくい」「社会参加の経験が少ない」ことが背景にあると考えられるが、テーマ自体が抽象的で、自分ごととして捉えにくい可能性もある。
- ・「そう思う」「そう思わない」が拮抗している点は、個々の経験や環境によって感じ方が大きく異なることを示している。

⑦「こども・若者の声をもっと聞いてほしい」と思うことはありますか？



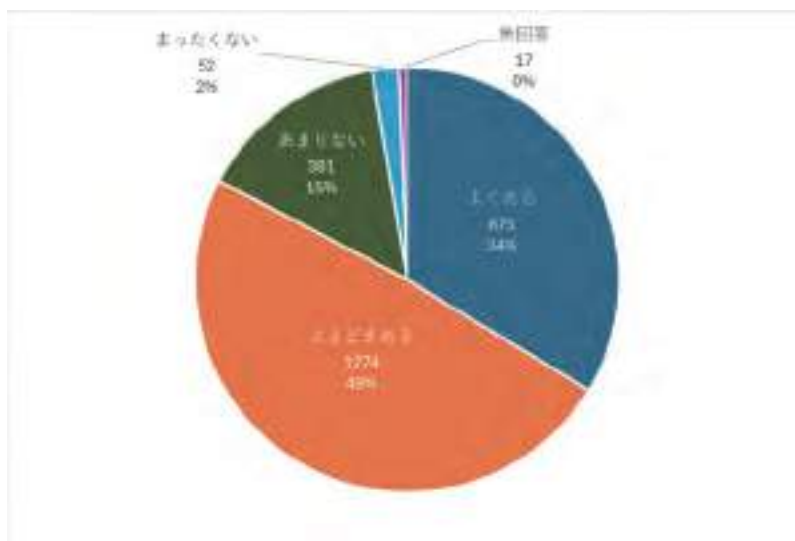
- ・「強く思う」「少し思う」を合わせると、全体の約7割を占めている。
- ・「強く思う」よりも「少し思う」が多いことから、「強い主張」よりも「ややそう思う」という“共感層”が厚い。
- ・「あまり思わない」は全体の3割程度で、無関心や現状に満足している層も存在する。
- ・多くの生徒が「もっと声を聞いてほしい」と感じているが、強い主張よりも「ややそう思う」層が多い

(3) 高校生

① 自分が「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場所はどこですか？

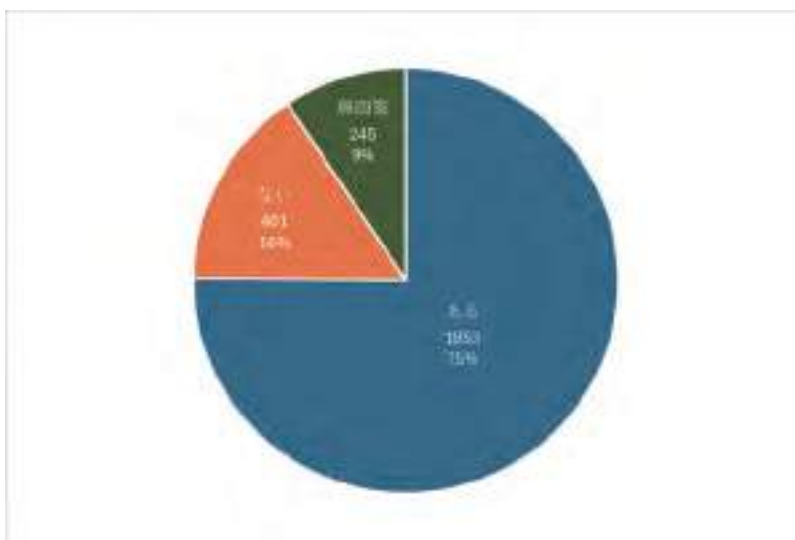
- ・「家」「自宅」「自分の家」「自分の部屋」など、家庭や自分の空間を挙げる回答が圧倒的に多い。
- ・「学校」「クラス」「部活」「学校の教室」など、学校生活の中で安心できると感じる生徒も多い。
- ・「インターネット」「SNS」「図書館」「公園」「グラウンド」「バレエスタジオ」「ライブ会場」など、趣味や活動の場も挙げられている。

② 学校や地域で「自分の意見を言える」と感じる場面はありますか？



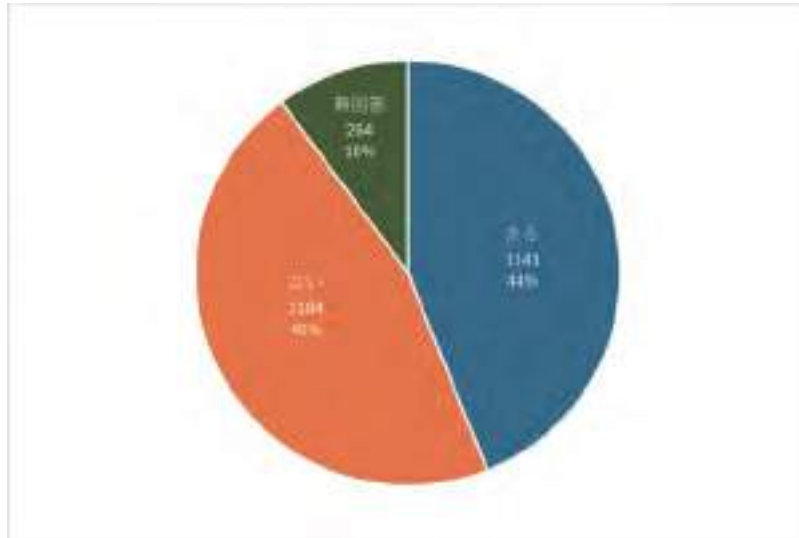
- 「ときどきある」「よくある」が全体の8割以上を占めており、多くの生徒が何らかの形で意見を表明できる場面を経験していると考えられる。
- 「あまりない」「まったくない」と感じている生徒も一定数存在するため、学校や地域によって意見表明のしやすさに差があること、また個人の感じ方にも幅があることがうかがえる。

③ 最近、うれしかったことはありますか？



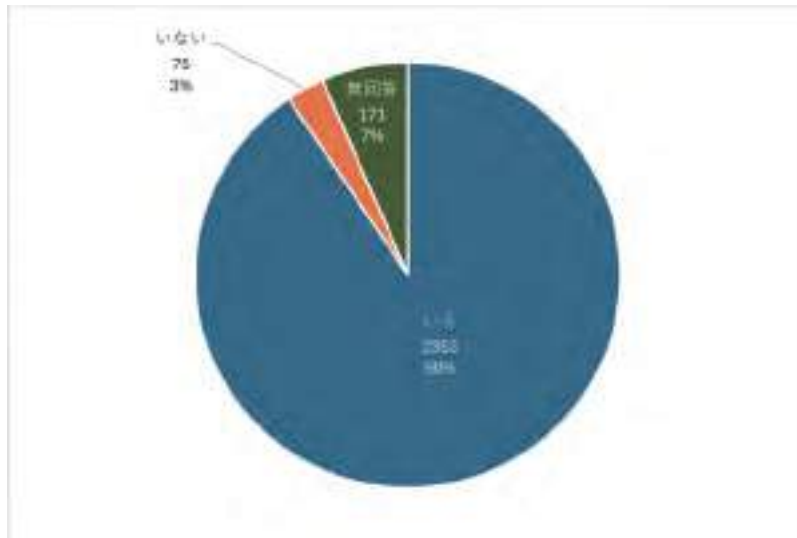
- 「友達とたくさん話せた」「家族や友達が誕生日をお祝いしてくれた」「好きな K-POP アイドルのライブやイベントにたくさん参戦できた」「一か月前の試合でベストを出した」「テストで良い点数が取れた」など、身近な人間関係や日常の出来事が多く挙げられている。
- 「ありがとうと言われた」「友達に褒められた」「友達と遊びに行った」など、他者とのポジティブな交流がうれしさの要因になっているケースが目立つ。
- 「うれしかったこと」は、日常のささやかな出来事から、特別なイベントや人間関係の変化まで多岐にわたっているが、一方で「あります」「ありません」「特にない」など、シンプルな返答も多く見られる。

④ 最近、困っていることはありますか？



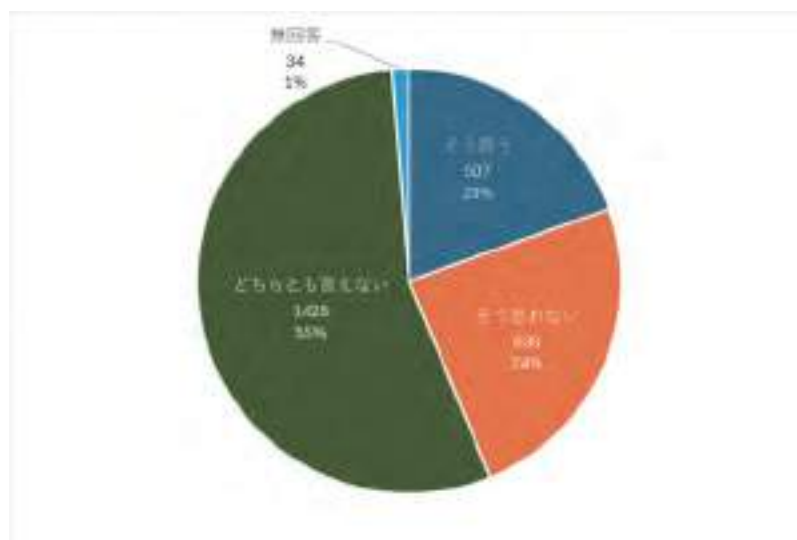
- ・「困りごとがある」「困りごとがない」がほぼ拮抗している。困りごとがある場合は「勉強」「人間関係」「健康・生活リズム」「部活動」「お金・経済的な悩み」など、さまざまな分野で困りごとが挙げられている。
- ・勉強
学業に関する悩み（勉強が難しい、ついていけない、やる気が出ない）
- ・人間関係
学校生活での人間関係の悩み（友達ができない、はぶられていると感じる、人間関係が難しい、いじめられている）
- ・健康・生活リズム
健康や生活リズムに関する悩み（睡眠不足、朝起きれない、太った・痩せない）
- ・部活動
部活動に関する悩み（部活がしんどい、部活がうまくいかない）
- ・お金・経済的な悩み
金銭的な困りごと（金欠、アルバイト禁止で困っている、物価高）
- ・その他スマホ依存、将来や進路への不安、家族関係、生活環境（通学・交通・施設）、体の痛みなどの悩みが見受けられる。

⑤ 困ったとき、相談できる人はいますか？



- ・「いる」と答えた生徒が多数。特に「家族」「友達」「先生」の3つが圧倒的に多く、複数併記も目立つ。
- ・「いない」と答えた生徒も一定数存在している。
- ・「たくさんいる」「いっぱいおる」など、相談相手が豊富であることを強調する生徒もいる。
- ・「あまりいない」「あまり相談しない」など、相談相手がいても実際には相談しづらい、または限定的な関係であることを示す回答も多い。
- ・「自分で考える」「AI」など、従来の人間関係以外の選択肢も一部で見られ、現代的な傾向も反映されている。

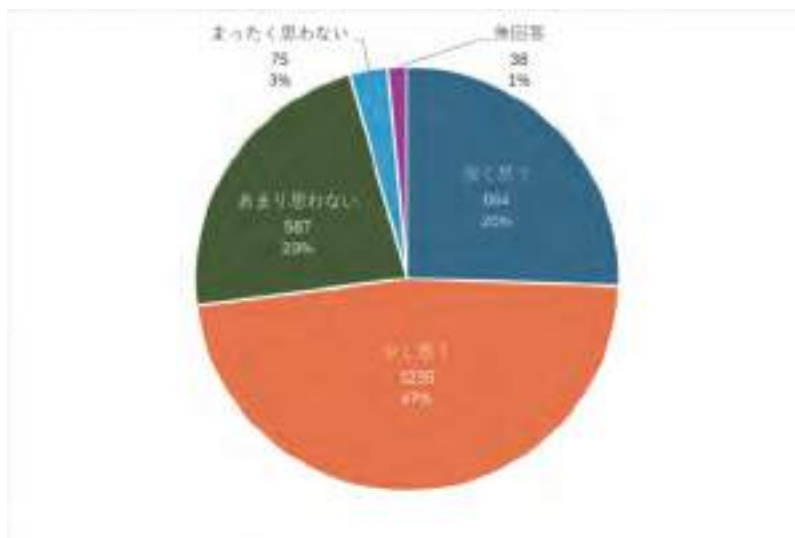
⑥ 自分の意見が社会やまちづくりに活かされると思いますか？



- ・「どちらとも言えない」が半数以上を占めており、自分の意見が活かされているかどうか判断が難しい、もしくは実感が少ない生徒が多い。

- ・僅差ではあるが「そう思う」よりも「そう思わない」の方が多く、自分の意見が社会やまちづくりに活かされると前向きに感じている生徒と自分の意見が社会やまちづくりに反映されていないと感じている生徒が拮抗している。

⑦「こども・若者の声をもっと聞いてほしい」と思うことはありますか？



- ・「強く思う」「少し思う」を合わせると、全体の7割以上を占めている。
- ・「強く思う」よりも「少し思う」が多いことから、「強い主張」よりも「ややそう思う」という“共感層”が厚い。
- ・「あまり思わない」は全体の3割程度で、無関心や現状に満足している層も存在する。
- ・中学生よりも「強く思う」の割合が多い。

(4) 若者

① あなたが「安心できる」「自分らしくいられる」と感じる場面や場所がありますか？

- ・「家」「自宅」「実家」「自分の部屋」など、家庭内で安心感や自分らしさを感じるという回答が圧倒的に多い。
- ・家族や親しい友人と一緒にいる時、ありのままの自分でいられるとの回答も多い。
- ・明石市やその周辺の「治安の良さ」「地域の温かさ」「子どもが多い街」「夜でも安心して歩ける」など、地元への愛着や安心感を挙げる回答も多い。
- ・「大蔵海岸」「江井島海岸」「藤江海岸」などの海辺や公園、「明石市立図書館」「西部図書館」など、静かで落ち着ける図書館も挙げられている。

② 地域や制度に対して「声が届いている」と感じることはありますか？



- 地域や制度に対して「声が届いている」との回答は「よくある」「ときどきある」を合わせると全体の約6割だが、「あまりない」「まったくない」との回答も約4割存在する。
- 「ときどきある」「あまりない」が多く、声が十分に届いていると感じている層は少数である。

③ 明石市で暮らしてよかったと思うことは何ですか？

- 子育て・教育支援が充実
 - 18歳まで医療費が無料、中学生の給食費も無料
 - おむつ定期便や保育料の無料化など、子育て世代への手厚いサポート
 - 図書館や自習スペースが多く、勉強できる環境が整っている
 - 子どもが多く、活気がある街
- 交通の利便性
 - JR、山陽電鉄、新幹線が利用でき、都市部（神戸・大阪・姫路など）へのアクセスが良い
 - 駅前が発達していて、必要な施設がコンパクトにまとまっている
 - タコバスなど地域交通も充実
- 生活のしやすさ
 - コンビニやドラッグストアが点在し、生活必需品の買い物に困らない
 - ゴミの分別が楽で、指定ゴミ袋が不要
 - 公共施設や行政手続きが便利（パピオス明石など）
- 自然と景観
 - 海や山、公園が身近にあり、自然を感じながら暮らせる
 - 明石海峡大橋や海の景色が美しい
 - 気候が良く、晴れの日が多い
- 治安・人柄
 - 治安が良く、夜でも安心して歩ける
 - 人柄が良く、地域の雰囲気が温かい

・地域の魅力・制度

おいしい海鮮やご飯がすぐ食べられる
市民の声が届きやすい規模感
若者会議や意見募集など、市民参加の機会が多い
経済政策や福祉制度も充実

④ 明石市において、若者として感じる課題や改善してほしいことは何ですか？

・若者の「居場所」や意見発信の機会の不足

若者が自由に過ごせるスペースや、意見を出せる場が少ない。
無料で使えるフリースペースや自習室、コワーキングスペースの増設希望。
若者向けのイベントやボランティア、チャレンジできるプログラムの拡充。
世代を超えてつながる場や、社会人になってからの居場所が少ない。

・交通・インフラ・安全面の課題

街灯や防犯カメラの不足、夜道の暗さや治安への不安。
バスや電車の本数・利便性の向上、駅や道路のバリアフリー化。
自転車専用道路や歩道の整備、交通マナーの改善。
駅周辺や道路の混雑、駐輪場やロータリーの不足。

・教育・学習・キャリア支援

高校・大学への支援や、資格取得のための金銭的サポート。
学習スペースや図書館の拡充、医療費や通学定期の補助。
地元でキャリアを築きたい若者への支援体制の強化。

・住宅・生活コスト・経済的支援

家賃や地価の高騰、住宅購入の負担軽減。
一人暮らしや独身世帯への支援、家賃補助や生活サポート。
物価高騰への対策や、現金給付以外の還元制度の要望。

・子育て・保育・福祉

保育園や児童館の不足、待機児童問題。
子育て支援の充実と、子育て世帯以外へのバランスある支援。
保育士や教員の待遇改善、保育の質向上。

・商業・娯楽・地域活性化

若者向けの娯楽施設やショッピングモールの不足。
駅前以外の地域の賑わいづくり、地域イベントの充実。
地元商店街や個人経営店の活性化。

・多様性・社会的包摂

外国人や社会的マイノリティへの配慮、差別のない制度づくり。
地域行事や自治会への参加のしやすさ、移住者との関係性。

⑤ 若者がもっと地域に関われるようにするには、どんな仕組みがあるとよいと思いますか？

・SNS、インターネットの活用

「自治会報だけでは届かない」「若者が使う SNS で発信」「SNS でイベントやアンケートを告知」「SNS で見てアンケートに参加した」など、従来の紙媒体や回覧板では若者に情報が届きにくいという課題意識が強く見られる。

・イベント・交流の場の充実

「イベントの開催・増加」「若者向けイベント」「ボランティア活動」「お祭り・フェス」「交流会」など、実際に集まれる場や体験の機会を増やすべきという意見も多く見られる。

「気軽に参加できる」「友達同士でもOK」「参加に特典（ギフト券、ポイント、参加賞など）」といった、参加のハードルを下げる工夫やインセンティブの提案も目立つ。

・意見を伝える・反映される仕組み

「アンケートの機会を増やす」「意見箱やネット上で意見を出せる」「意見が反映されたことを周知」など、若者の声を集めて反映する仕組みへの要望も多い。

・参加のハードルを下げる工夫

「気軽に参加できる」「縛りが少ない」「1時間からのボランティア」「ふらっと立ち寄れる場所」「オンラインで参加できる」など、柔軟でライトな関わり方を求める声が多い。

・情報の届け方・見せ方の工夫

「駅やショッピングセンターなど若者が集まる場所での告知」「チラシやポスターの設置」「インフルエンサーの活用」「キャッチコピーやコラボ企画」など、情報が自然に目に入る工夫や、興味を引く見せ方への提案も多く見られる。

・参加メリットの明確化

「ポイント制や地域通貨」「参加賞や特典」「ボランティアやイベント参加で得られるメリット」など、関わることで得られる具体的なメリットを示すことが重要という意見も目立つ。

・若者専用、若者向けの場や制度

「ユーススペース」「若者向けコミュニティ」「若者専用イベント」「若者優遇制度」など、若者が主役になれる・気兼ねなく集まれる場や制度の必要性も挙げられている。

(5) 全世代共通設問「こんな“あかし”になったらいいな」

全世代に共通するキーワード・価値観

・安心・安全

犯罪や事故のない街、防犯・災害対策、治安の良さを求める声が全世代で強い。

・住みやすさ

公園や自然、交通の利便性、清潔な街並みなど、生活環境の快適さを重視。

・人とのつながり

助け合い、思いやり、地域交流、声をかけやすい雰囲気など、温かいコミュニティを望む意見が多い。

・楽しさ・魅力

イベント、観光、文化、スポーツなど、街に活気と楽しさを求める傾向。

世代別の特徴

小学生

- ・遊び場・自然：「公園が多い」「安全に遊べる場所」「動物や自然と触れ合える」など、遊びや体験の場を求める声为中心。
- ・安心感：「危険がない」「見守り」など、保護される環境への期待。

中学生

- ・学びと遊びの両立：「勉強できる場所」「習い事の支援」「部活動やスポーツイベント」など、成長の機会を求める。
- ・交流の場：「友達と集まれる場所」「カフェ」「イベント」など、コミュニティ形成への関心。

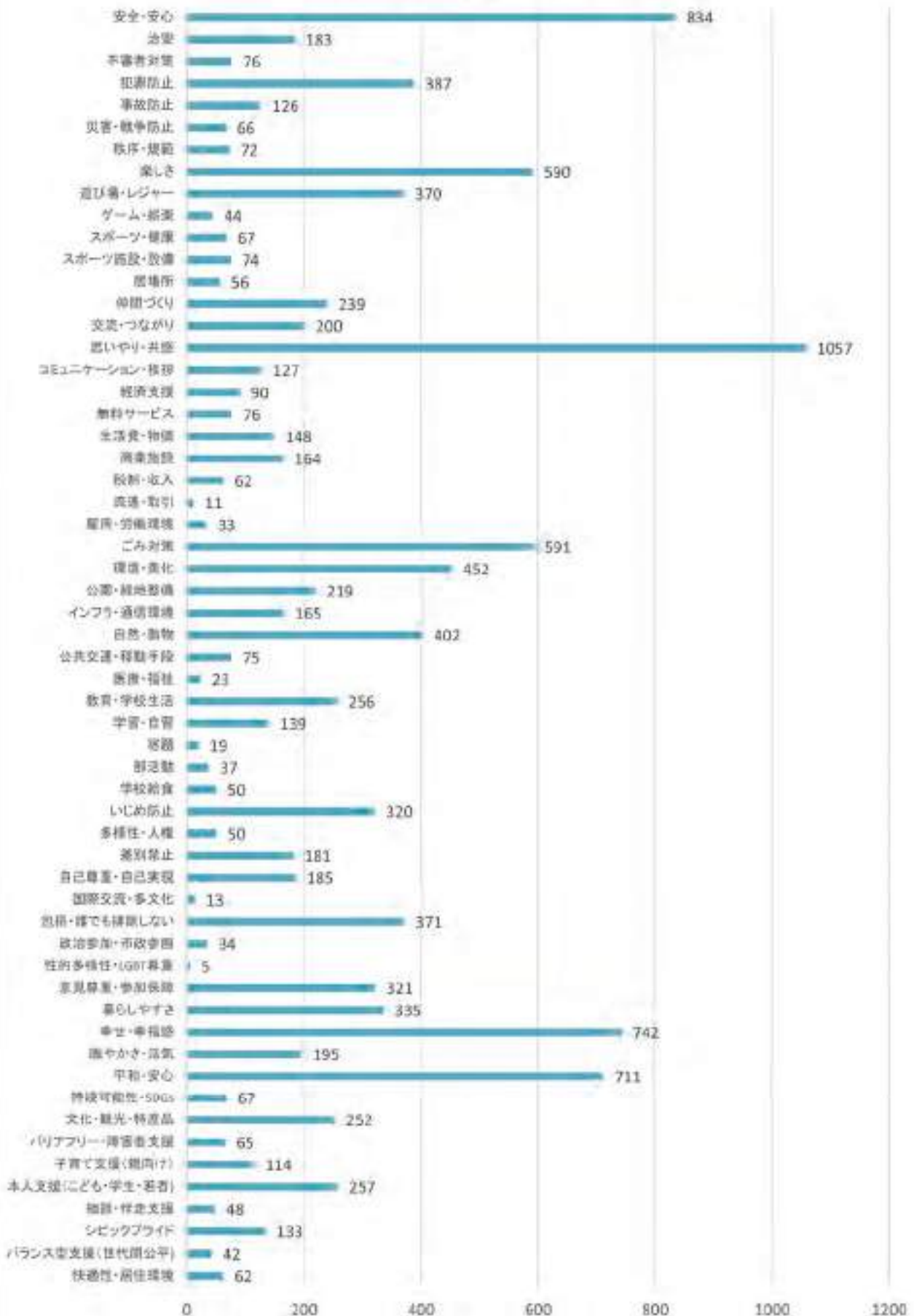
高校生

- ・進路・挑戦の支援：「留学」「資格取得」「進学・就職イベント」など、未来への準備を応援する仕組みを望む。
- ・自己表現・文化：「アート」「音楽」「写真」など、個性を発揮できる場や支援を求める。

若者

- ・子育て・ライフステージ支援：「子育てしやすい」「保育園」「出産支援」など、ライフイベントに直結するニーズが強い。
- ・多様性・インクルージョン：「LGBTQ」「障害者」「外国人」など、誰もが認められる街への期待。
- ・キャリア・夢の実現：「起業」「留学」「挑戦を応援」など、閉塞感を打破し、未来に希望を持てる環境を求める。

カテゴリーごとの意見数



小学生の意見の特徴

1. 安全・安心なまちへの強い願望

「犯罪がない」「不審者がいない」「事故がない」「治安が良い」「安心安全」など「危険がない」「事件や事故が起きない」ことを強く望んでおり、夜でも安心して過ごせる環境や防犯対策への期待が高い。

2. いじめ・差別のない社会

「いじめがない」「差別がない」「みんな仲良し」「平等」「ジェンダー平等」など学校生活や地域での人間関係において、優しさや思いやりを重視する声が非常に多い。「ふわふわ言葉を使う」「悪口を言わない」など、言葉遣いへの意識も見られる。

3. 笑顔・楽しい・平和

「笑顔あふれる」「楽しい」「平和」「ハッピー」「みんなが幸せ」などポジティブな雰囲気を求める声が圧倒的で、「みんなが笑顔で過ごせる」「楽しいイベントやお祭りがある」など、心地よいコミュニティを望んでいる。

4. 環境・自然・きれいなまち

「ゴミがない」「ポイ捨てなし」「海や川がきれい」「自然豊か」「SDGs」など環境問題への意識が高く、「ゴミ拾い」「海をきれいに」「外来種を減らす」等のSDGsに関連する考え方も多く見られる。

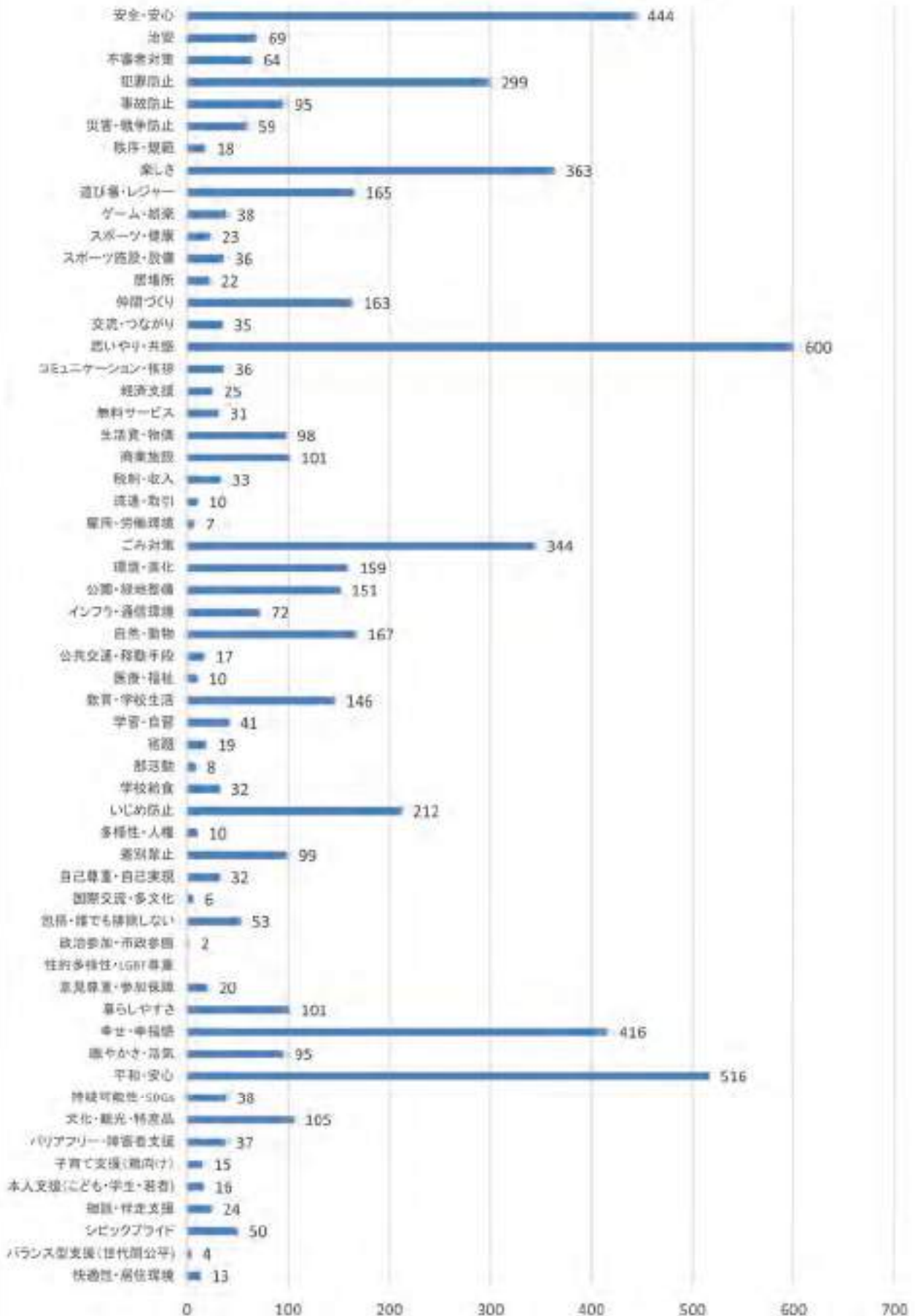
5. 暮らしやすさ・経済面

「物価が安い」「税金を下げて」「給料アップ」「食べ物が安い」など「物価高」や「生活のしやすさ」に関心があり、経済的な負担を減らすことを望む声が目立つ。

6. 遊び場・施設の充実

「公園を増やして」「遊園地」「水族館」「図書館」「ゲームセンター」など遊びや学びの場を増やしたいという要望が多く、「無料で遊べる施設」「Wi-Fiがある場所」「スポーツができる公園」など具体的な提案もある。

【小学生】カテゴリごとの意見数



中学生の意見の特徴

1. 人間関係・コミュニティに関する願い

「一人一人が大切にされる」「意見が尊重される」「お互いを思いやれる」「差別や偏見がない」など、人権や個性を尊重する社会を望む声が非常に多い。

「いじめがない」「喧嘩がない」「陰口がない」など、安心して過ごせる人間関係を求めている。

「挨拶ができる」「笑顔があふれる」「地域交流が増える」など、温かい雰囲気やコミュニケーションを重視する傾向がある。

2. 安心・安全な暮らし

「犯罪がない」「不審者がいない」「夜道が安全」など、安全性への強い関心が見られる。「防災」「災害に強いまち」など、安心できる生活基盤を求めている。

3. 環境・自然への配慮

「自然が大切にされる」「海がきれい」「環境にやさしい」など、環境保護やSDGsに関する意識が高い。

「ポイ捨てがない」「きれいなまち」「ゴミ拾い」など、清潔な街づくりを望む声が多数。

4. 個性・多様性の尊重

「性別や国籍に関係なく」「多様性が尊重される」「個性を認め合える」など、現代的な価値観を反映した意見が目立つ。

5. 子ども・若者への配慮

「子供の意見を尊重」「遊び場を増やす」「教育を大切に」など、子どもや若者の居場所や声を重視する傾向。

「勉強できるスペース」「図書館を増やす」「給食がおいしい」など、学習環境への要望も多い。

6. 楽しさ・娯楽の充実

「公園を増やす」「ボーリング場や映画館」「イベントが多い」など、娯楽施設や地域行事への期待が強い。

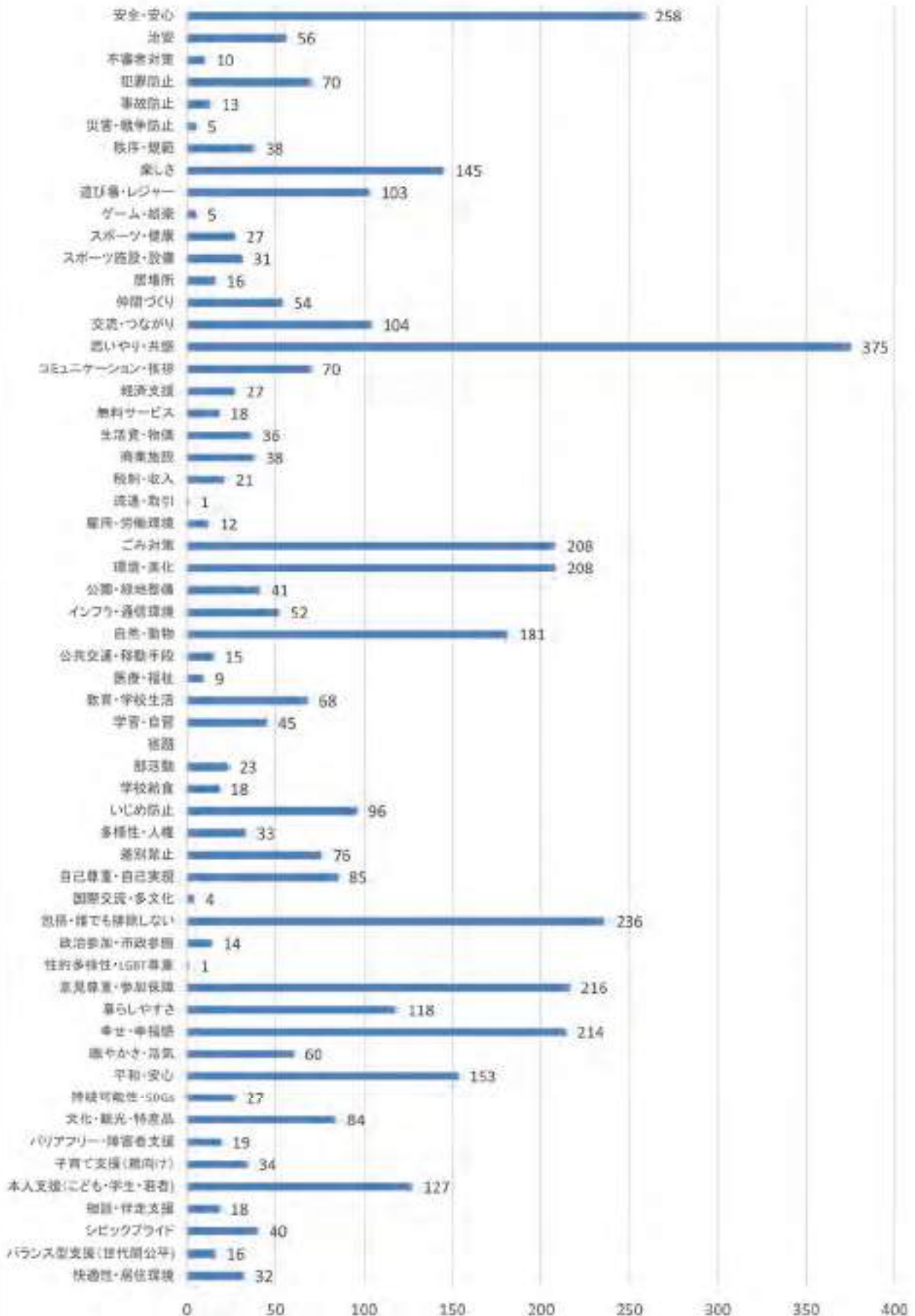
「バスケットゴールを増やす」「スポーツができる場所」など、運動できる環境への要望も目立つ。

7. 経済・生活のしやすさ

「物価が安い」「税金が少ない」「給付金」など、経済的負担を減らしたいという声。

「交通が便利」「駅周辺の開発」「ショッピングモール」など、都市機能の充実を求めている。

【中学生】カテゴリごとの意見数



高校生の意見の特徴

1. 安心・安全なまちづくり

「治安が良い」「犯罪がない」「事故がない」「夜も安心して歩ける」など、安全性への強い要望が目立つ。

「安心して暮らせる」「安心して登下校できる」など、日常生活の安全確保を重視。

2. 意見が尊重されるまち

「子供の意見が反映される」「若者の声を聞いてほしい」「全員の意見が平等に反映される」など、参加型のまちづくりへの期待が強い。

「自由に意見が言える」「個性が尊重される」など、自己表現の場を求める声も多い。

3. 遊び場・交流スペースの充実

「遊べる場所が増えてほしい」「高校生が気軽に入れるフリースペース」「ボウリング場やテーマパーク」など、娯楽・交流の場不足が顕著。

「学校帰りに自習できる場所」「無料で勉強できるスペース」など、学習環境と遊び場の両立を求める声も。

4. 自然・環境の保全

「自然が大切にされる」「海がきれい」「緑豊かなまち」など、自然環境の維持・改善を望む声が多い。

「ポイ捨て禁止」「ゴミがない街」など、環境美化への意識も高い。

5. 平等・思いやり・多様性

「みんなが仲良く」「差別がない」「ジェンダーレスな明石」など、多様性と共生を重視。

「思いやりがある街」「助け合える街」など、人間関係の温かさを求める声も。

6. 教育・若者支援

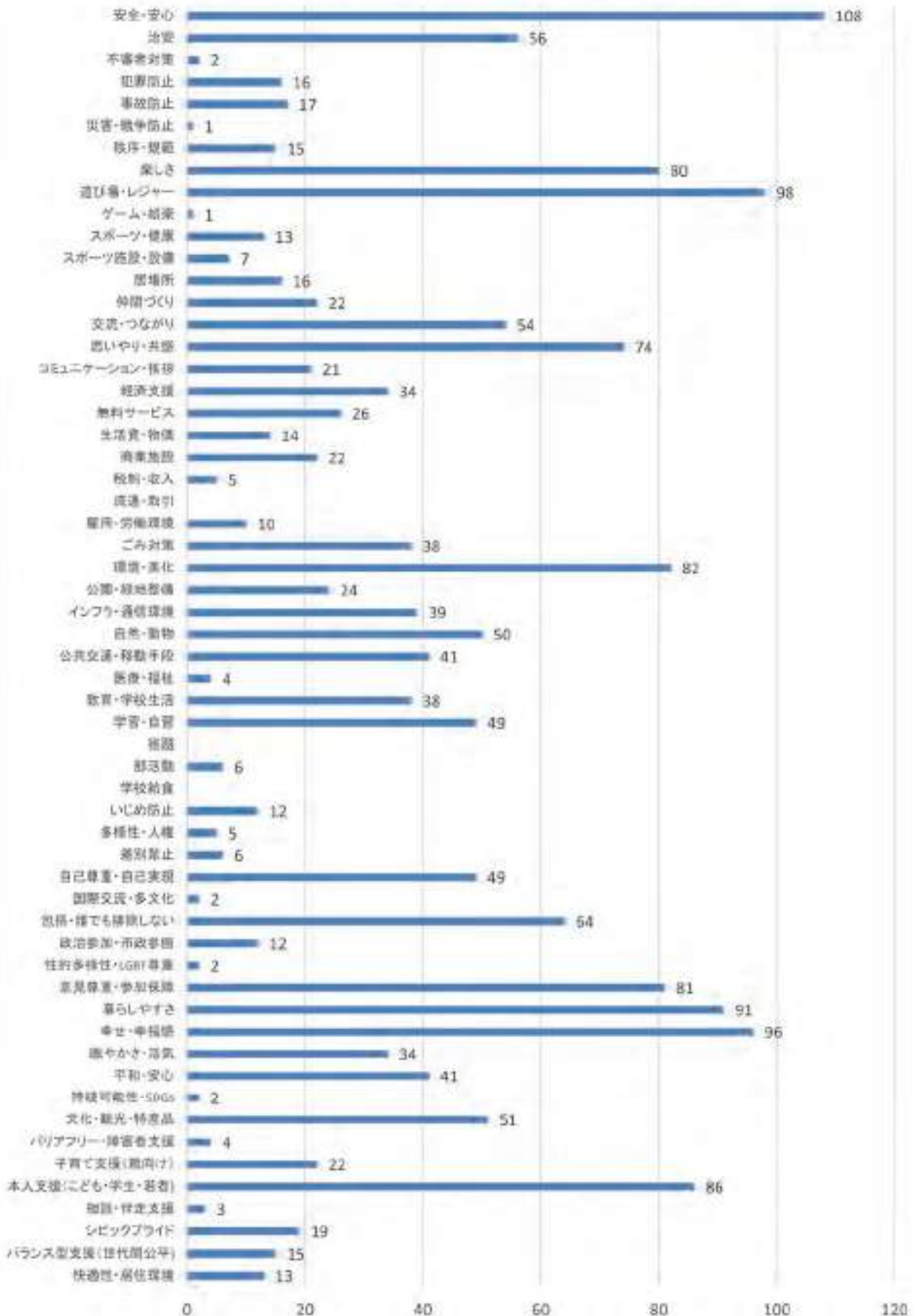
「高校生・大学生への支援」「交通費無料」「学費無償化」など、経済的負担軽減を求める声が多い。

「部活動の充実」「校則の緩和」「勉強スペースの確保」など、学習・活動環境改善への要望。

7. 交通・利便性の向上

「タコバスの本数増加」「駅を増やしてほしい」「自転車専用道路」など、移動の不便さ解消を求める声が多数。

【高校生】カテゴリごとの意見数



若者の意見の特徴

1. 子育て・教育への強い関心

「子育てしやすいまち」「子育て支援が日本一」「保育園や幼稚園が入りやすい」「高校生の定期代無料」「教育の充実度」など、子育てや教育に関する要望が圧倒的に多い。特に第一子から安心して産める環境や 妊娠・出産後の制度強化 など、ライフステージの初期を支える仕組みへの期待が強い。子どもの笑顔や安全を守ること、学びの機会を広げること（留学支援、資格取得支援など）も重要視。

2. 安心・安全で住みやすい街

「安心安全」「犯罪がない」「災害対策」「交通事故ゼロ」「治安の良い街」など、安全性に関するキーワードが頻出。

「どの世代も安心して過ごせる」「ずっと住み続けたい」「一生住める街」など、長期的な居住のしやすさも重視。バリアフリーや障害者・精神疾患への配慮も挙げられており、インクルーシブな街づくりへの期待が見える。

3. 多様性・個性の尊重

「LGBT が認められる」「性別や年齢関係なく」「外国人やハーフが認められる」「どんな人も認められる」など、ダイバーシティの尊重が強調されている。

「挑戦が応援される」「個性を伸ばせる」「夢を叶える支援」など、若者が自分らしく生きられる環境を求める声も多い。

4. 若者の活躍・夢の応援

「若者が活躍できる」「学生が応援される」「若者に投資」「起業や留学支援」など、キャリア形成や挑戦の機会を求める意見が目立つ。

「閉塞感を打破する教育」「将来に夢を持てるような仕組み」など、未来への希望を持てる街づくりが重要。

5. コミュニティ・つながり

「人々が助け合える」「地域の距離が近い」「声をかけても不審者扱いされない」「市民の声が届く」など、温かい人間関係や市民参加を重視。

「イベントが多い」「楽しい町」「みんなが集まれるカフェ」など、交流の場や文化的な魅力も求められている。

6. 便利さ・都市機能の充実

「大型商業施設」「交通の利便性」「渋滞解消」「駅のバリアフリー」「買い物できる場所」など、生活利便性への要望も多い。

「観光地として魅力」「海や景観」「明石焼きや魚の棚の活性化」など、地域資源の活用とブランド力強化も期待されている。

【若者】カテゴリごとの意見数

